学生相談室だより 108

カウンセラー・教授　白石まりも

二〇二〇年は、オリンピックの開催があり、なんとなくわくわくした気持ちで迎えました。

ところが二月になり、新型コロナウイルスが蔓延し出してくると、世の中が少しずつ変わってきました。

二月下旬になりいろいろな事が分かってくるに従い、生活が一変しました。飛沫感染であると知ると、街中からマスクが消えました。発症する前（潜伏期間）でも感染することから、通勤のリスクを避けるために自宅での仕事を推奨したため、大人も自宅にいるようになりました。高齢者の持病を持っている人が罹りやすく、重篤になりやすいと報道されていたのに、小学生がり患しました。政府が、全国の小・中学校高校を四月めどに、全て休校にしました。つまり、このウイルスについて、あまり分かっていないのです。感染のリスクを無くすために、卒業式や結婚式、送別会などが縮小・日程変更・中止を余儀なくされました。今後の行事などは、三月の動向にかかっています。収束に向かってほしいと切に願っています。

四月、桜が咲き、希望に満ちた新入学・新学年を迎えるはずが、先が見通せていません。

それは、九年前の東日本大震災の時を思い出させます。当時も今も、「当たり前に暮らせることの幸せ」を考えさせられました。

大学生になる・ゼミに入る・一人暮らしを始める・バイトをする等、お子さんは四月からの生活を、どのように思い描いているのでしょう。新しいという事は、知らないという事です。何をどうしたらよいかわからないという事は、不安もありますが、良いストレスでもあります。大学は、お子さんたちの新生活をバックアップいたします。ご心配事や、様子の変化などが見えてきましたら、相談室への来室をお話しいただけたらと思います。親御さんからのご相談も受け付けております。お子さんの大学生活が、より良い時間となることを願っております。